

授業科目	科目概要・形式	配当年次	オンライン参加
感染看護学演習Ⅱ (微生物検査の基礎と無菌法 の実際)	2単位 60時間(30コマ) 演習科目	博士前期1年次 通年開講	可・不可 「下記7. 参照」
科目責任者	新改 法子		
担当者	新改 法子、福井 幸子、井澤 弘美、土井 英史 (非常勤)、筒井 理華 (非常勤)		
1. 科目のねらい・目標			
<p>&lt;ねらい&gt;</p> <p>微生物の取り扱いや、微生物検査の基礎と実際を学び、それらの知識を踏まえて感染防止活動の展開について探求する。また、医療現場における洗浄・消毒・滅菌、無菌法およびファシリティ・マネジメントに関する原理及び管理方法を修得し、臨床における応用について探求する。さらに、看護ケアにおける病原微生物の伝播経路と伝播防止方法および効果について探求する。</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <p>1) 洗浄・消毒・滅菌の基礎的知識に基づき、臨床実践への無菌法の応用について説明できる。</p> <p>2) 主な微生物の基本的な分離・培養・保存・同定法、薬剤感受性試験を習得し、その結果を説明できる。</p>			
2. 授業計画・内容			
<p>1-2回 : 洗浄・消毒・滅菌・無菌法の原則と実際、滅菌物の取り扱い (非常勤・土井英史)</p> <p>3-4回 : ファシリティ・マネジメントの原則と実際① (非常勤・土井英史)</p> <p>・廃棄物、給食、空調、水、清掃、リネン管理</p> <p>5-6回 : ファシリティ・マネジメントの原則と実際② (非常勤・土井英史)</p> <p>・建築・改築時のリスクアセスメント</p> <p>7-8回 : 環境中の病原微生物の特徴、衛生管理、清掃方法、効果検証 (新改・福井)</p> <p>・清掃方法 (頻度、高頻度接触表面・天井・床の感染リスク)</p> <p>・清掃の評価 (目視確認、蛍光マーカー、ATP測定など)</p> <p>・清掃資器材、環境用消毒剤</p> <p>9-10回 : 医療現場における応用無菌法の討議 (新改・福井)</p> <p>11-12回 : 演習前の全体オリエンテーションと計画書作成 (新改)</p> <p>13-14回 : 看護ケアにおける手指衛生の検証の演習 (学内演習:井澤、福井、新改)</p> <p>・手指衛生前後でスタンプし、24時間培養した寒天培地のコロニー数を測定・比較する</p> <p>15-16回 : 環境および器材の清浄化の効果検証の演習 (学内演習:井澤、福井、新改)</p> <p>・高頻度接触表面および器材を対象に、アルコール消毒前後でATPを測定・比較する</p> <p>17-18回 : 環境中の病原微生物の特徴、衛生管理、清掃方法、効果検証の討議 (新改・福井)</p> <p>19-20回 : 微生物検査室における講義・演習①～⑥ (青森県衛生研究所:3日間)</p> <p>①検体の採取～分離培養・同定までの流れ、検体および各種検査機器の取り扱い (講義)</p> <p>21-22回 : ②検体採取 (鼻腔内常在菌)・固定・グラム染色の実施</p> <p>23-24回 : ③②検体を培養、感受性試験 (ディスク法) による薬剤感受性試験</p> <p>24-25回 : ④結核菌の塗抹染色・培養・同定と結核菌検査室の設備、安全キャビネット</p> <p>26-27回 : ⑤③の結果評価</p> <p>27-28回 : ⑥ウイルス抗原検査 (EIA、PCR など) (講義)</p> <p>29-30回 : 本演習を通じた、医療現場における感染症看護専門看護師の役割と活動の展開に関する討議 (新改・福井)</p>			
3. 教科書、参考書			
教科書：指定はない。			
参考書：			
1) 中野隆史編：看護学テキスト NICE 微生物・感染症学，南江堂，2020. ISBN:978-4-524-23798-2			
2) 岡田忍，他編：微生物学・感染看護学 微生物から感染防止を考える，第2版，医歯薬出版，2021.			

ISBN:978-4-263-23754-0

- 3) International Association of Healthcare Central Service Materiel Management 編/日本感染管理支援協会訳：セントラルサービステクニカルマニュアル第8版，日本感染管理支援協会，2020.
- 4) 滅菌ハンドブック医療機器の洗浄から提供まで第5版，日本感染管理支援協会.
- 5) 日本医療機器学会：医療現場における滅菌保証のガイドライン 2021，2021.  
<https://www.jsmi.gr.jp/wp/docu/2021/10/mekkinhoshouguideline2021.pdf> (2025. 5. 2 アクセス)
- 6) 日本医療機器学会：医療現場における滅菌保証のための施設評価ツール Ver. 1. 1, 2023.  
[https://www.jsmi.gr.jp/pdf/Facilities-evaluation-tool-for-sterility-assurance\\_ver.1.1.pdf](https://www.jsmi.gr.jp/pdf/Facilities-evaluation-tool-for-sterility-assurance_ver.1.1.pdf) (2025. 5. 2 アクセス)
- 7) 環境省：廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアル，2025.  
<https://www.env.go.jp/content/900534354.pdf> (2025. 5. 2 アクセス)
- 8) 日本医療福祉設備協会規格：病院設備設計ガイドライン（空調設備編），日本医療福祉設備協会，2022.
- 9) 認定病院患者安全推進協議会：感染管理に関するツール集 2014年版 Chapter6 ファシリティ・マネジメント，2014. <https://www.psp-jq.jcqh.or.jp/post/info/6992> (2025. 5. 2 アクセス)
- 10) 満田年宏監訳：医療施設における環境感染管理のためのCDCガイドライン，2004.
- 11) 大久保 憲編：2025年版消毒と滅菌のガイドライン，へるす出版，2025. ISBN:978-4-86719-112-5

#### 4. 成績評価方法

演習への取り組み状況（40%）、プレゼンテーション・質疑応答の内容（60%）で総合的に評価する。

#### 5. 受講要件

感染症看護専門看護師コースの学生は必修

#### 6. 社会人学生に対する配慮

オンライン授業等は相談があれば個別に対応する。

#### 7. その他

課題について文献検討を行い、プレゼンテーション資料を作成して臨んでください。  
本科目は、一部オンライン講義を含みますが、基本的に対面による授業とします。  
やむを得ない理由による欠席等でオンデマンドを希望する場合は事前に教員に相談してください。  
視聴を許可した場合は、授業の概要および発問への意見をレポートにまとめて、指定した期日内に提出していただきます。授業担当者または科目責任者が学習目標に沿って評価し、目標達成が認められた場合に出席とみなします。